



リクナビ進学ブック
進学事典 応援号

志望理由書を自分の言葉で書くために『進学事典』のワークシートを活用

— 神奈川・県立 ^{すげ}菅高校 —

取材・文／永井ミカ



3学年
田中講平先生

School Data

創立1983年／普通科
生徒数1064人(男子568人・女子496人)
進路状況(2013年度)／大学進学33.9%・短大進学6.6%
専各進学41.4%・就職7.9%・その他10.2%
神奈川県川崎市多摩区菅馬場4-2-1
TEL 044-944-4141
URL <http://www.suge-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

大学進学者数を着実に伸ばしている菅高校。2012年度は初めて大学進学者が100人を超えた。そのうち、一般受験で進学するのは20〜30人ほどで、近年、AO入試の受験者が増加。学校を挙げての対策が急務となっていた。

3種類のワークシートに成長の過程を書き記す

「志望理由書を自分の言葉で書けるようにするには、どのように指導すればいいのか悩んでいました」と言うのは、昨年2学年の担任をしていた田中講平先生。2年生の3学期には志望校を決めて志望理由書を書き始めたいと思い、教材づくりを模索していたそうだ。

そこで活用したのが『進学事典 応援号』。こちらで学問リストや職業リストを参考に学校情報を調べ、志望校を絞り込んでいきながらワークシートを使って志望理由書を書く準備をしようというものだ。「全員参加のインタビュシップなど、それまでのキャリア教育で、書きたい思いはある生徒たちです。一方、文章を書くことは苦手とする生徒もいるので、まずは話し言葉と書き言葉の違いについてのオリジナルのワーク(下図参照)を実施。1月の『進学事典 応援号』を活用する進路講演を経て、ワークシートに取り組みました」と田中先生。『進学事典』のワークシートは「自己理解・学校探知シート」「志望理由書を書く準備をしよう」「志望理由書の練習シート」の3種類。具体的、段階的に取り組めるようになっていく。

■ ワークシート「志望理由書を書く前に」



学校オリジナルで作成。『進学事典 応援号』のワークシートの前に取り組む

ワークは総合的な学習の時間に各クラスで実施。例えば、自分の長所を書く欄で生徒の手が止まっていると、田中先生は「誰かに感謝されたことはない？」などとアドバイスをしていく。時間内に書けなければ持ち帰らせ、生徒が提出したワークシートをていねいにチェック。何度もやりとりをする。ワークシートには「将来像…目標を達成・実現したら、どのように社会と関わっていくか考えてみよう」などの欄もあり、なかなか簡単には書けない。もう一度、自分の志望動機を振り返り、社会問題について調べ、考える作業も必要だ。結局昨年度は、3枚のワークシートを仕上げるのに3月までかかった。

「時間はかかりましたが、それによって、生徒に『本気で考えて学部・学科を決めなくてはいけない時期だ』と意識付けすることができました。もちろん、まだ志望を迷っていた生徒もいますが、現時点でものを書くように促せば、作業をしながら考えられます」と田中先生は言う。なお、ワークには就職希望者も同じように参加。自己理解、志望動機、将来像などの問いは進学・就職関係なく取り組め、就職試験にも役立つと考えたからだ。進学志望者はワークと並行して『進学事典』で学校を調べ資料請求し、春休みのオープンキャンパス参加への準備も行った。担任と生徒の対話も増え、志望校や志望学部の絞り込みは例年より早まったそうだ。

「何となく大学へという生徒も少なくありませんでしたが、今年の3年生は学部・学科を早くから考えることができました。志望動機をはっきりさせることが自主的に学ぶことにつながります。そこから生徒には、自分の力で未来を選び勝ち取ってほしいと思っています」